

森の日記 2024年3月30日～6月23日

by 迷鳥キツキ

3月30日は今年最初のエゾアカガエルの産卵状態調査が行われました。昨日雨が降ったのですが、第二柏林台川沿いの調査地にはまだたくさんの雪が残っていました。したがってカエルの卵塊はひとつも見つけれませんでした。林床の植物も1ヶ所でフクジュソウを見た他はまだほとんど芽吹いていませんでした。しかし気温は高く、朝9時の集合時にはプラス5.8°Cでした。これから融雪が進み、来週には最初の産卵が認められることと思います。



左：上流の池、 右：遊歩道を移動するメンバー。

4月7日には2回目のカエルの産卵状態調査が行われました。調査地では雪がほとんど溶け去り、フクジュソウやザゼンソウがあちこちで咲き始め、ヤナギの開花も進んでいました。カエルの産卵も始まり、上の池ではエゾサンショウウオの産卵も認められました。背中にオスを乗せたエゾアカガエルのペアもいくつか見ることができました。調査責任者さんによれば来週は産卵がピークになり数百個（千個に近い？）の卵塊を数えることになるだろうとのこと。



左：上流の池での調査、 右：エゾアカガエルと卵塊。

4月14日の午前中はシイタケのホダ木作りが行われました。ホダ木は、去年、蝶の調査ルートを間伐したときに出土したミズナラの木を活用したものです。初めて参加さ

れたご夫婦や、私がお会いするのは初めてという方たちも来られて、大変賑やかな集まりとなりました。



左：親子で種菌の打ち込み、 右：作業後の休憩時間。

4月14日の午後には3回目のカエルの産卵状態調査が行われました。久しぶりにカエル調査に参加した子供たちもいて大変賑わいました。カエルの卵塊の数は、全部で400個程度と、先週の5個と比べると著しく増えていましたが、調査責任者さんは1000個近くを予想しておられたようで、その点は残念でした。



左：上流の池での調査、 右：ヤチボウズに乗った小学生。

4月14日午前と午後の活動の合間に森の中の道を散策しました。第二柏林台川沿いではキバナノアマナやエゾエンゴサクが、遊歩道の脇ではアオイスミレが咲いていました。アズマイチゲも調査中にたくさん見ることができました。



左：アズマイチゲ、 右：アオイスミレ。



左：キバナノアマナ、 右：エゾエンゴサク。

4月21日はカエルの産卵状態調査の4回目が行われました。初めて参加された親子連れも2組あり賑やかでした。カエルの卵塊そのものはそれほど多くなく、前回はピークのような感じでした。4回の調査を含めての総カウント数は600に達しないだろうとのことでした。これには去年の夏の暑さが影響しているのではないかと、調査責任者さんは言うておられました。調査の道沿いでは今年初めてタチツボスマレやエンコウソウ、ネコノメソウなどの開花を見ることができました。アズマイチゲ、キバナノアマナ、エゾエンゴサクなどは花の数が一段と増えていました。ザゼンソウやミズバショウは葉が大きく育っていました。



左：調査前の説明、

右：遊歩道脇の池。



左：タチツボスマレ、

右：エンコウソウ。



左上：ツボスマレ、

右上：エゾノタチツボスマレ

左下：サクラスマレ、

右下：アカネスマレ

4月28日には今年最初のチョウ類調査と植物相調査が行われましたが、私は参加できませんでした。4月下旬から5月中旬にかけてさまざまな植物が競うように開花しましたが、近くで写した4種類のスマレの写真を上に示しました。

5月12日には、朝9時からチョウ類調査が行われました。薄曇りで日照が足りなかったせいか、前半の森の中ではチョウがほとんど現れませんでした。後半の草原部分では陽が差し始め、モンキチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キアゲハ、ベニシジミなどいくつかのチョウを確認することができました。チョウの数は少なかったですが、調査ルート上ではオオバナノエンレイソウ、ニリンソウを始めさまざまな植物の開花を楽しむことができました。その後12時からは調査小屋の前で総会を行いました。総会のお弁当には今年は帯広のソウルフード「インディアンカレー」が提供されました。ご飯やパンは各会員の持ち寄りでした。カレーは参加人数分の2倍以上あったので、ご飯にふんだんにかけて楽しむことができました。3時からはエゾリスの会による過去10年間の生物調査の結果のとりまとめ方法について、ハグクームで懇談会が行われました。1日たっぷりエゾリスの会の活動で過ごしました。



左：チョウを探すメンバー、 右：総会後のインディアンカレー

5月19日は早朝5時から鳥類調査が行われました。集会所付近の森にはカラス（ハシボソ+ハシブト）がたくさん集まっていたうさいほどでした。カラスは木の枝をくわえているものも多く、これから巣作りをするものだと思います。たくさんのカラス類の他にもアカゲラ、カラ類、センダイムシクイ、アオジ、ヒヨドリ、コルリなどなどたくさんの鳥がいましたが、鳥の判別は目視よりも鳴き声によって行われるので、鳴き声に詳しくなく聴

力も落ちた私にはとても調査は無理だなと思いました。森の中では、オオバナノエンレイソウ、ユキザサ、ミツバウツギ、コンロンソウ、ニリンソウなどがきれいに咲いていました。鳥類調査に続いて9時から森の清掃活動（ゴミ拾い）も行いましたが、私は10時から町内会の会議があるので失礼してきました。



左：早朝に集まったメンバー、 右：アオジ

5月26日は朝6時から夕方5時頃までエゾリス調査、蝶類調査、植物調査が逐次行われました。私は町内会の公園草刈りがあったのでエゾリス調査には参加できず、蝶類調査の途中から参加しました。途中からとは行っても、蝶の調査は10時から開始されているのに私は10時50分に皆の後を追って集合地点を出発したので、追いついたのは調査がほとんど終了した12時頃でした。蝶の調査ではウスバシロチョウ（ウスバアゲハ）がたくさん見つけたようですが、昨日の強風の影響で蝶の出現数は全体的に少なかったそうです。私は午後の植物調査の最初の頃にエゾヒメシロチョウを見ることができました。



左：パークゴルフ場付近、 右：エゾヒメシロチョウ

午後1時半からの植物調査では主に草原からなる地域を調査する班に参加しました。オオバナノエンレイソウの花期は終わりに近づき、ベニバナイチヤクソウ、バイケイソウ、ハルジオンなどが咲き始めました。他にもさまざまな草花を見て、春から初夏への季節の進行を感じることができました。



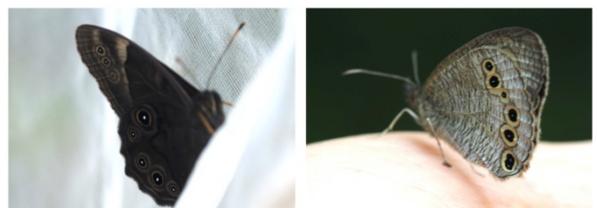
左：ベニバナイチヤクソウ、 右：調査を終えて

6月9日は朝5時から鳥類調査、朝9時からチョウの調査が行われました。曇りがちで気温もせいぜい16℃くらいまでしか上がりませんでしたので行動しやすい天気でした。鳥類調査には7名の会員が集まり、3名と4名に分かれて調査を行いました。1班（3名）のグループは調査ルートを2周して調査しました。2班は1班よりも30分遅れてスタートし1周だけ調査しました。両方で3回の調査を行いました。鳥は圧倒的にカラス類が多かったですが、他にもゴジュウカラ、シジュウカラ、アオジ、ヒヨドリ、アカゲラ、キビタキ、センダイムシクイ、キジバト、アオバト、コルリ、オオルリなどがいました。カラ類は雛が巣立って家族でまとまって行動していました。



左：出発を待つメンバー、 右：アカゲラ

チョウの調査も1名が入れ替わりましたが同じ人数で行いました。曇天の影響でチョウがほとんど現れず、全体でクロヒカゲ2頭、ヒメウラナミジャノメ2頭、ツバメシジミ1頭を確認できただけでした。調査路上の草花の様子もだいぶ変わってきました。季節の変化を感じながら調査を行いました。



左：クロヒカゲ、 右：ヒメウラナミジャノメ

6月16日はエゾリスの会で里山作りの活動を行いました。航空法による伐採跡地にオオアワダチソウがはびこったので表土をいったん剥ぎ取った地点に6年ほど前に自然林からの植物を移植しました。その後の定着状態の調査とオオアワダチソウの残存程度の調査を毎年2回ずつ行っています。今回は調査の精度を上げるため、調査区を2メートルおきの方形区に区切って、杭打ちと水糸張りを行ってから調査を行いました。移植されたエゾノウミズザクラやホザキシモツケが大きく育っていました。林床にもいろいろな自然植生の植物が定着していました。私はオオアワダチソウの残存調査の方を担当しましたが、天然植生の回復とともにオオアワダチソウも着実に減少していました。調査と草取りは午後も続けられました。



左：杭への焼印押し、 右：植生調査中の会員

6月23日は朝9時からチョウの調査が、午後13時15分から植物調査が行われました。曇天であったためチョウの出現数は少なかったですが、ヒメウラナミジャノメが最も多く、他にクロヒカゲ、コキマダラセセリ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ベニシジミなどを見ました。チョウ以外にも、ミヤマクワガタやノコギリクワガタを見ることができました。ルート途中ではヤマグワが実り、エゾノシモツケソウやその他の花が美しく咲き誇るなど楽しい調査となりました。



左：ミヤマクワガタ 右：コキマダラセセリ

午後の植物調査はいつものように2班に分かれて行いました。1班は指標植物の個体数調査も行うため主に森の

中の調査を行いました。私が加わった2班は南側の草原部から調査を始め、第2柏林台川の北側の山の斜面までの調査を行いました。2班には札幌に引っ越すため今日が最後の参加となる高校生のS君が参加してくれました。彼は小学生高学年の頃からずっと参加してくれていたのもう会えなくなるのは寂しいですが、また機会があれば来てくれるそうです。午前午後を通して、調査中今年初めてみた花（蕾も含む）としてはキツリフネ、イボタノキ、イケマ、エゾノレンリソウ、エゾノシモツケソウ、オニシモツケ、ノリウツギ、カラフトホソバハコベ、サラシナショウマなどがありました。



左：カラフトホソバハコベ 右：エゾノシモツケソウ